

公益社団法人日本ホッケー協会(JHA) 平成31年度 事業計画

JHAの理念

JHAの使命は、ホッケー競技を通じすべての人々に対して、健全な肉体と精神を持つスポーツマンを育てる事にある。ホッケー競技を通じて、スポーツ文化の振興に努め、人類の平和と繁栄に貢献することがJHAの理念である。

JHAの目的

JHAは、我が国におけるホッケー界を統轄し、代表する団体として、ホッケー競技の普及及び振興に関する事業を行い、国民の体力の向上とスポーツ精神の涵養に寄与することを目的とする。

JHAの行動指針

1. 高い倫理観に基づいて行動する。
2. コンプライアンスを徹底し、高水準のガバナンスを実践する。
3. 人々とのつながりを大切にし、常に尊敬と感謝の気持ちをそなえる。
4. グローバルな視野に立脚し、誠実且つ責任をもって行動する。
5. お互いに正直で素直な、明るく風通しの良い組織づくりを実践する。

JHAは、この目的を達成するために、次の事業を行う。

東京 2020 オリンピックに向けた選手強化、並びに競技役員の養成と共に、JOC、東京オリンピック組織委員会、品川区、大田区などと協力しオリンピックムーブメント活動を推進していく。併せて、ホッケー競技の普及・発展に必要な財政基盤の確立と、公益法人として公正適切な組織運営に努める。

<平成 31 年度 基本 8 策>

(1)ガバナンス向上

透明性・公平・公正性はスポーツ活動の基盤。ホッケーに携わる者一人一人がコンプライアンス意識を高め、さらに組織においては、事業決定の透明性、説明責任を果たすなど、ガバナンスをより一層高いレベルに持っていく。

(2)普及

初めてスポーツと出会うスポーツ少年団からマスターズに至るまでのプレーヤーに、ホッケーを通じたスポーツの歓びと素晴らしさを伝え、生涯スポーツとして地域に根ざした普及活動を推進し、ホッケー競技の定着化を図ると共にホッケー活動人口の増加をめざす。

(3)選手強化

「東京 2020 オリンピック」でのメダル獲得を目指しトップチームの指導・支援体制をより一層強化する。また、次世代を担うジュニア層の強化において一貫指導体制を強化し、

指導力のあるスタッフの人選及び指導方針の確立と、充実した強化体制を構築する。

(4)競技役員強化

オリンピック、ワールドカップ、ワールドリーグ等の主要国際競技大会への競技役員派遣を行い、世界に通じる男女競技役員の養成と充実を図る。

(5)広報活動

「東京 2020 オリンピック」開催を好機に、ホッケー競技が日本国内に浸透するよう機能的かつ効果的な広報活動に努める。

(6)国際連携

国際ホッケー連盟(FIH)、アジアホッケー連盟(AHF)及び各国協会と密接な連携を行い積極的に交流を図る。また、積極的に世界とアジアのホッケーの発展のため責任ある立場にたち活動できる、国際人の人材発掘・育成を行う。

(7)マーケティング推進

ホッケー競技およびJHAの魅力をより効果的に発信するとともに、協会活動の根幹を共有することが出来るスポンサー獲得に努めることにより、長期安定的な財政基盤の構築に努める

(8)海外渡航の安全

国際大会等海外渡航における危機への対処及び危機を発生防止すべく、海外対策安全渡航会議を設置し、海外渡航の安全対策を講じる。

1. ホッケー競技の国内競技大会の開催に関する事業

(1)国内競技会

1)第 38 回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦

開催場所:立命館OICフィールド(大阪:茨木市)、グリーンランドみずほホッケー場(京都:京丹波市)

開催期間:2019年7月4日(木)~7月7日(日)

2)男子第 82 回・女子第 61 回全国高等学校ホッケー選手権大会

開催場所: KIRISHIMA 宮崎県総合運動公園 (宮崎:宮崎市)

開催期間:2019年7月27日(土)~7月31日(水)

3)第 41 回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

開催場所:日光市ホッケー場・(栃木:日光市)

開催期間:2019年7月27日(土)~7月29日(月)

4)第 49 回全日本中学生ホッケー選手権大会

開催場所:滋賀県立伊吹運動場・米原市伊吹第1グラウンド(滋賀:米原市)

開催期間:2019年8月17日(土)～8月19日(月)

5)男子第61回・女子第41回全日本社会人ホッケー選手権大会

開催場所:樋脇屋外人工芝ホッケー場・丸山自然公園ホッケー場(鹿児島:薩摩川内市)

開催期間:2019年9月14日(土)～9月18日(水)

6)第17回全日本マスターズホッケー大会

開催場所:小矢部ホッケー場(富山:小矢部市)

開催期間:2019年9月21日(日)～9月23日(月・祝)

7)第74回国民体育大会ホッケー競技

開催場所:阿漕ヶ浦公園ホッケー場、県立東海高等学校多目的グラウンド(茨城:那珂郡東海村)

開催期間:2019年9月29日(日)～10月3日(木)

8)第68回男子・第41回女子全日本学生ホッケー選手権大会

開催場所:大井埠頭海浜運動公園ホッケー場(東京:品川区・大田区)

開催期間:2019年10月23日(水)～10月27日(日)

9)第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

開催場所:福井県立ホッケー場、越前町菅朝日総合運動場(福井:丹生郡越前町)

開催期間:2019年11月9日(土)～11月10日(日)

10)第93回全日本男子ホッケー選手権大会

開催場所:赤磐市熊山運動公園多目的広場(岡山:赤磐市)

開催期間:2019年12月6日(金)～12月8日(日)

11)第80回全日本女子ホッケー選手権大会

開催場所:赤磐市熊山運動公園多目的広場(岡山:赤磐市)

開催期間:2019年12月5日(木)～12月8日(日)

12)第51回全国高等学校選抜ホッケー大会」

開催場所:川崎重工ホッケースタジアム(岐阜:各務原市)

開催期間:2019年12月21日(土)～12月25日(水)

13)高円宮杯2019ホッケー日本リーグ

開催場所:大井埠頭海浜運動公園ホッケー場(東京:品川区・大田区)ほか9会場

開催期間:2019年4月～2019年11月

(2)登録

独自の登録システムを新たに構築し、国内のホッケー関係者(役員・選手)をスポーツ少年団からマスターズまでの全カテゴリーにおける登録システムを順調に稼働させる。

各都道府県協会と密接に連絡をとりながら本協会事務局との連携を深め、一括データ管理を行い業務改善を進めていく。

(3)競技規則の制定及びホッケー競技規則(ルールブック)の発行

国際ホッケー連盟(FIH)が制定する競技規則をもとに、国内用の規則を制定しており、これらの諸規程をまとめた「ホッケー競技規則(ルールブック)」及び「競技運営規程」を2年に一度発行、配布を行っているが、現在は公式ホームページからもデータのダウンロード可能としている。

(4)施設・用器具の検定及び公認

日本国内におけるホッケー競技発展の為、本協会の規定に定める要件を満たす人工芝競技施設の公認制度を推進、また競技者の安全と快適なプレイを守る為、用器具の検定も実施する。

2.競技役員の資格付与に関する事業

(1)審判員の資格付与

審判員については、本協会が定める「公認審判員規程」に則り、A級、B級、C級審判員資格を付与している。また本協会は、国際ホッケー連盟(FIH)やアジアホッケー連盟(AHF)の加盟団体として、的確なレベルに達した審判員を国際審判員にする為に積極的に国際大会等へチームに帯同させたり派遣をしている。

(2)競技役員の資格付与

競技役員については、本協会が定める「公認トーナメントディレクター(TD)、テクニカルオフィサー(TO)、ジャッジ(J)規程」に則り、資格を付与している。また国際ホッケー連盟(FIH)やアジアホッケー連盟(AHF)の加盟団体として、的確なレベルに達したオフィシャルを積極的に国際大会等に派遣している。

【審判員・競技役員の資格付与に関する取り組み】

■審判講習会及び研修会を実施し、審判員の養成と審判技術の向上を図る。

■資格審査室を設置して、公認テクニカルディレクター(TD)、テクニカルオフィサー(TO)、ジャッジ(JG)、A級、B級、C級審判員の資格認定を行う。

また、国内競技大会開催中に不測の事態が発生した場合、その関係者の資格についても審議する。

- 国際競技大会への審判員、競技役員の派遣業務を円滑に進めるためにも、語学力のある人材の発掘・育成を計画的に推進する。
- オリンピック、ワールドカップ、ワールドリーグ等の国際競技大会を視野に入れた国際レベルの審判員と競技役員の養成と充実を図る。
当面の目標として「2020 東京オリンピック」派遣審判員、競技役員を育てる。
- 女性の審判員及び競技役員の養成と育成を図る。特に女性審判員の養成は最重要課題である。
- 海外との審判員交流を図り、国内の審判員の技術向上と国際視野に立った審判員を育てる事業を推進する。
- 他競技団体との連携を密にし、他競技の有効なシステムを取り入れ、審判員と競技役員の組織活性化を図ると共に資質の向上を目指すプログラムを推進する。

3. ホッケー競技の普及、指導者の育成に関する事業【公1】

(1) コーチ3養成講習会／専門科目講習会(ホッケー競技)

主催：公益財団法人日本スポーツ協会、公益社団法人日本ホッケー協会

開催場所：未定

開催期間：前期(7月予定)、後期(2020年1月予定)

目的：地域において、競技者育成のための指導にあたりるとともに、広域スポーツセンター及び各競技別トレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる者を養成する。

(2) コーチ4養成講習会／専門科目講習会(ホッケー競技)

主催：公益財団法人日本スポーツ協会、公益社団法人日本ホッケー協会

開催場所：未定

開催期間：2019年12月予定

目的：ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。国際大会等の各競技会における監督・コーチとして、競技者が最高の能力を発揮できるよう、強化スタッフとして組織的な指導にあたる。

(3) 指導教本の販売

名称：ホッケー指導教本／発行日：2013年8月29日(改訂版)

販売単価：1部につき2,000円

目的：各年代の発育段階に応じた適切な指導方法を普及させる

【ホッケー競技の普及に関する取り組み】

- 各ブロック協会(北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)との連携により、中長期的な視野に立った根本的な普及策を模索、検討し、その上で必要な施策を実施する。
- 小学生など幼少期からからホッケーに出会えるようなホッケー体験会、オリンピックの派遣などの事業

を国内で広く展開する。

- (公財)全国中学校体育連盟への加盟推進やスポーツ拠点づくり推進事業の継続支援を通じて、中学校世代の更なる普及と発展を図る。また、全国大会及び予選大会を通じて、「マウスガードの義務化」を行うなど、成長期の生徒達に対する安全面への配慮について継続した取り組みを行う。
- 国体参加チームの登録選手数が適切な数となるよう、(公財)日本スポーツ協会と協議するとともに、連携を図る。
- マスターズ年代の諸活動を充実させることで、生涯スポーツとしての方向性を確立すると共に、地域における社会人組織の活性化を図る。
- 各都道府県協会と協働して、総合型地域スポーツクラブとの連携を図り、発展的な普及活動を模索する。

【指導者育成に関する取り組み】

- スポーツ少年団の活動指針である「発育と発達」に基づく指導を呼び掛け、ホッケーの楽しさを子ども達に伝える。
- 公認指導者講習会を実施し、指導者の養成と指導技術の向上を図る。また、既資格取得者の資格更新システムを確立し、指導者が常に学ぶことの出来る機会を構築する。
- 国民体育大会をはじめ、(公社)日本ホッケー協会主催大会へ出場するチーム指導者への公認指導資格の義務付けを厳守させる。その為に、各都道府県で受講出来るよう、コーチ1及びコーチ2資格取得養成講習会の開催促進に取り組む。
- 一貫指導者教本に基づいた正しい指導を広く実践する。また、有資格指導者を組織化し、指導に関する情報を共有できる機能を整備する。
- U-21までの指導体系を確立させ、シニア代表への意欲を持たせる。
- U-21までの海外派遣の機会を効果的に行い、「パリ 2024 オリンピック」を見据えた選手強化に併せて、海外における指導情報の収集を図る。

4. ホッケー競技の競技力向上に関する事業、並びに国際競技大会の代表者選定及び派遣に関する事業

(1)選手強化

■競技者支援

(独)日本スポーツ振興センター「アスリート助成」を受け、対象競技者に向けた財政支援を行う。

■強化合宿、海外遠征

国内強化合宿(サムライジャパン)/年10回予定、国内強化合宿(さくらジャパン)/年11回予定

国内強化合宿(U21 男子)/年4回予定、国内強化合宿(U21 女子)/年3回予定

国内強化合宿(U18 男子)/予定無し、国内強化合宿(U18 女子)/予定無し

海外遠征・招聘(サムライジャパン)/年8回予定、海外遠征・招聘(さくらジャパン)/年8回予定

海外遠征(U21 男子)/年2回予定、海外遠征(U21 女子)/年1回予定

海外遠征(U18 男子)／年1回予定、(U18 女子)／年1回予定

日韓競技力向上スポーツ交流(U18 男子・女子)／年1回

海外遠征(U-16 男子・女子)／年1回予定

(2)国際競技大会への代表参加者選定及び派遣

【男子】

オランダ遠征(サムライジャパン)／開催国:オランダ

開催期間:2019年4月20日～5月2日

ホッケーシリーズファイナル(サムライジャパン)／開催国:インド

開催期間:2019年5月27日～6月17日

アズランシャーカップ(サムライジャパン)／開催国:マレーシア

開催期間:2020年3月

ジョホールカップ大会(U21 男子)／開催国:マレーシア

開催期間:未定

アジアカップ大会(U21 男子)／開催国:未定

開催期間:未定

ニュージーランド遠征(U18 男子)／開催国:ニュージーランド

開催期間:2020年2月

【女子】

海外遠征(さくらジャパン)／開催国:ニュージーランド又はオーストラリア

開催期間:2020年1月13日～28日

オーストラリア遠征(U21 女子)／開催国:オーストラリア

開催期間:2020年2月21日～27日

U18オランダカップ(U18 女子)／開催国:オランダ

開催期間:2019年8月26日～9月2日

【男・女】

オーストラリア遠征(U16 男・女)／開催国:オーストラリア

開催期間:2019年11月下旬

(3)医科学サポート

1)国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿においてドクターやトレーナーを派遣、
またドーピング検査を実施する。

2)(公財)日本アンチドーピング機構発行の冊子を与え、啓蒙活動を行う。

【ホッケー競技の競技力の向上に関する取り組み】

- 男女ジュニア、ユース、ジュニアユース日本代表を恒常的に編成し、年代別一貫指導強化体制の下に、「東京 2020 オリンピック」においてメダル獲得を念頭に入れた積極的な強化活動を実施し、国

際競技力向上に繋げる。

- 一貫指導システムの拡充の為、ターゲットエイジ構想をさらに進展していく。
- スポーツ基本法を具体化した、国立スポーツ科学センター(JISS)の、ジュニア期からトップレベルに至るまでの発掘・育成・強化に対するスポーツ医・科学・情報面からの高度な支援、国際競技大会におけるコンディショニング調整など効果的に JISS の指導を受け、内外の情報分析と医科学的見地を取り入れた代表チーム・選手個人個人の競技力向上を図る。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)及び国際ホッケー連盟(FIH)と緊密に連絡を取り、アンチドーピングの周知徹底を図り、居場所情報や合宿時における講習会等を実施して、選手指導者に協力と義務を認識させる。
- (公財)日本アンチドーピング機構(JADA)の指導の下、国内における国際大会並びに国内主要大会においてドーピング検査を実施する。指導者にドーピング検査への協力徹底と、国内のドーピングコントロールオフィサー(DCO)の養成を図る。

5. 広報活動

(1)メールマガジン

名称:「ホッケーデジタルメールマガジン」

2019年度より、大会日程により多少の変動はあるが、基本的に1回/2ヶ月、年6回の発信とし、より即時性の強いウィークリーの情報は、サイト更新情報に移行する。

目的:各種大会結果や代表チームの活動状況など、本協会事業の様々な情報を発信する。

(2)イヤーブック

名称:「ホッケーマガジン・イヤーブック」/毎年1回、6月初旬発行

販売単価:2,000円(税込)

目的:年度におけるJHA主催の大会全記録、並びに本協会事業の各種情報を詳細に掲載。

JHAの対外的紹介資料として、またJHAデータベース構築の基礎データの役割も果たす。

【広報活動に関する取り組み】

- 「東京2020オリンピック」に向けて、機能的な広報活動を進めるため、現在・過去を含め情報のデータベース化に着手する。
- 現状のホッケー情報配信体制を見直し、今後のメディア対応をより良く進めるため、きめ細かい情報配信のシステムを再構築する。また取材等に対しての人的対応体制も整備する。
- JHA ホームページの広告推進を図るため、年度初めに一部リニューアルと地域活動情報のページを新しく企画する。また動画については、今年度はJHA主催全大会の配信を実施する。
- SNSの活用をより一層推進し、若年層への幅広い情報提供を推進する。
- ホッケーマガジン・イヤーブックの拡販に努める。

6. 東京2020オリンピック準備関係

2020 年開催の東京オリンピックにおけるホッケー競技の計画どおりの実施と東京オリンピックを契機にオリンピック後の日本のホッケーの環境をより良くすることをめざし、大井ホッケー場建設に関する NF としてのサポートをはじめ東京オリンピックに係る諸テーマに関して東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、品川区、大田区、東京都ホッケー協会等関係諸団体との連携を図り取り組む。大井ホッケー場が使用開始となる本年度はオリンピック開催時の観客動員をテーマに開催地東京でのイベントの検討・実施等オリンピックムーブメントの推進に取り組む。

7. 国際活動

【国際活動に関わる取り組み】

- 日本のホッケー強化と国内における普及を目指し、国際ホッケー連盟 (FIH) 及びアジアホッケー連盟 (AHF) と連携しながら国際活動を行う。両連盟の企画するイベントには出来る限り参加をし、協力する。
- 国際ホッケー連盟 (FIH) 及びアジアホッケー連盟 (AHF) 並びに各国ホッケー協会と連携して情報交換し、大会参加を通じて海外と積極的に交流活動を行う。
- 国際ホッケー連盟 (FIH) 及びアジアホッケー連盟 (AHF) と密接な連絡を取ると共に、国際会議や国際競技大会等に参加し、最新の国際情報を取得する。
- 国際ホッケー連盟 (FIH) 及びアジアホッケー連盟 (AHF) との更なる連携強化のため、ロビー活動を積極的に行うことで競技役員として主要な国際大会で活躍出来る人材の登用と育成を図る。
- 日本代表チーム等の国際競技大会、海外遠征の支援活動(連絡や交渉、情報収集)を行う。また、招聘情報を関連団体に提供する。
- 海外代表チーム等の日本への招聘事業に関しては、強化本部との協力の下に行う。
- 日本国内における国際競技大会開催時に現地実行委員会、本協会事務局と共に、中心的な役割を果たす。
- (公財)日本オリンピック委員会等が主催する国際関係会議に参加する。

8. (公社)日本ホッケー協会諸会議

平成 31 年度総会・理事会の開催日程

(1) 定時総会

開催場所: 未定

開催日程: 6 月 8 日(土)午後 1 時～

(2) 理事会

開催場所: 岸記念体育館など

開催日程: 年 5 回開催予定、日程未定

9. マーケティング

我が国におけるホッケー競技の普及及び進行に関する事業目的の為、長期的な財政基盤確立に

賛同する協賛企業とのパートナーシップ強化と、新たな協賛企業の獲得を目指して、本事業を実施する。

【マーケティングに関する取り組み】

- 長期的な収入基盤確立のため、オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と、事業毎の複数のスポンサー獲得計画の策定
- 協賛企業の確保と新規協賛企業の拡大

10. 総務・財務に関する事業

(1) ホッケーに関わる人一人一人がより高い倫理観に従って行動し、コンプライアンスを高める。

- ① 選手、役員等のコンプライアンス研修会を積極的に開催する。
- ② 関係団体においても、コンプライアンスの重要性を伝えていく。
- ③ アンチドーピング教育を充実する。

(2) JHAの組織運営にガバナンスを行き届かせる。

- ① 事業運営や決定の透明性を図り、マネジメント機能の強化を図る。
- ② 諸規程に基づいた決裁権限を遵守することを徹底する。
- ③ 事業実施はすべて決裁を受けてから行うことを意識づけ、徹底する。

(3) 財務規律を確立し健全な協会運営を図る

- ① 予算制度に基づいた業務執行を浸透させ、徹底する
- ② 計画的な事業執行を行い、運転資金や余裕資金を確保する

(4) 日本オリンピック委員会(JOC)の方針を尊重し、実行する

- ① 東京 2020 オリンピックに向け、JOC や JSC からの補助金を、効果的に活用する。
- ② JOC の方針を確実に受け止めて JHA として実行し、実現させる
 - ・ 女性理事比率目標20%達成のロードマップを作る
 - ・ 環境保護への取り組みを周知し、JHA 主催、後援等かかわりのある大会のプログラムに IOC 環境ポスターのページをとってもらう
 - ・ 選手が安心して競技に取り組める環境づくりに取り組む
(賭博、八百長、覚せい剤等から選手を遠ざける)
(JOC のコーチ育成施策を活用する)

(5) スポーツ少年団、中学生ホッケー大会の開催、支援を通じて日本のホッケー界の裾野を広げ、ホッケー人口が増えるよう取り組む

(6) サイバーセキュリティ対策に取り組む。

(7) SEM制度により、適切に国際親善試合を開催する。さらに、地方に広めて行く。

(8) 既存協賛企業以外のスポンサー開拓に取り組む、取り組める人材を確保する。